

あなたを支える緩和ケア～治療も、仕事も、生活も～

— 2人に1人が経験するがん治療、日常との両立に必要なこと —

がんが診断された当初から患者の体と心の苦痛を和らげて、患者や家族が質の高い治療や療養生活を送れるよう支援する緩和ケア。その普及を目指す市民講座が1月、横浜市内で開催され、医療関係者ら専門家、治療を続けながら働くがんサバイバー（がんの診断を受けた全ての患者）が緩和ケアの役割や、治療と仕事や生活との両立などについて話し合いました。

講演3 「～仕事について～すぐに仕事を辞めないよう」

現役で働く世代の3人に1人ががんがら治療を受ける可能性が高まっています。また、東京都の調査によると、がん患者の8割が就業意欲を持っており、「生計を維持するため」「働くことがいかに重要である」などを、その理由に挙げています。

できることで貢献
誰かと一緒に考えて



中山 照雄氏
国立国際医療研究センターがん相談支援センターソーシャルワーカー

「上司や同僚に病気のことをどう話せばよいか分からぬ」「職場に伝えたら解雇されないか」などの不安を抱えています。不安を一人で抱え込まず、誰かに相談することが一番です。自分では思いがけなかった選択ができるかもしれないからです。

講演4 「～患者の立場から～『心のケア』支えに」

私は2000年、27歳のとき、血液がんのひとつ、悪性リンパ腫を診断され、化学療法や放射線療法などの治療を受けました。その後、再発を2度、合併症も経験しました。そうした経験を通じて、現在、がん患者支援活動を行っています。

患者も家族も勇気を出し「助けて」と声を上げて



天野 慎介氏
全国がん患者団体連合会 理事長

「自立」とは「助けてほしい」といえることだ」とい言葉が、あつた。患者さん自身で抱え込まず、勇気を出し「助けて」と声を上げてほしいと思います。

講演1 「～治療について～がんとともに自分らしく」

腫瘍内科は抗がん剤など薬を使った治療をするほか、道に迷った患者さんへの「道案内役」とチーム医療の「かじ取り役」も担っています。患者さんにとって最適な医療を行うために、緩和ケア、手術、放射線治療、薬物治療の専門家が役割分担するのをうまくコーディネートします。

一人ひとりの幸せ目指し
緩和ケアも薬物療法も



高野 利実氏
虎の門病院 臨床腫瘍科 部長

「がん」といって、患者さんにとっては「がん」としてではなく、治療の「道案内役」として、患者さんにとって最適な医療を行うために、緩和ケア、手術、放射線治療、薬物治療の専門家が役割分担するのをうまくコーディネートします。

講演2 「～生活について～社会的な資源活用を」

がんは身体の中にあり見えないけれど、患者さんは、精神的、身体的、社会的な苦痛を、家庭や仕事など社会的な生活の中で生きていく意味や目的、そして生きることへの価値観の4つの側面から「全人的苦痛」を抱えています。

患者の心の声を聴き
QOLを向上させる



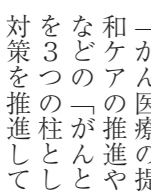
林 あり子氏
慶応湘南病院 看護部 がん看護専門看護師

「がん」といって、患者さんにとっては「がん」としてではなく、治療の「道案内役」として、患者さんにとって最適な医療を行うために、緩和ケア、手術、放射線治療、薬物治療の専門家が役割分担するのをうまくコーディネートします。

来賓 あいさつ



佐々木 昌弘氏
厚生労働省健康局長 がん対策推進課 課長



天野 慎介氏
全国がん患者団体連合会 理事長



高野 利実氏
虎の門病院 臨床腫瘍科 部長

ディスカッション 「治療も、仕事も、生活も、あなたにとってどれも大切。～何にこまり、どう解決するか?～」

池永 2人に1人ががんになる時代、止むを得ずがんがら治療を受ける方が増えています。一方で自分が十分な仕事ができないと心配し、周囲に伝えるべきなのかと悩む患者さんもいます。

「前向きに生きる」
緩和ケアが支える
池永 生活上の問題、子供とどう接していくのかアドバイスはありますか。

池永 あなたが書いているのが、涙ながらの闘病ブログに人気がある。でも、不安を呼ぶような内容ばかりではなく、もっといろいろなことを知ってほしいと思います。生活が変わる必要はない、以前と同じように生活したい、以前と同じように生活したい、以前と同じように生活したい、以前と同じように生活したい。

伝える勇気を持ち 継続して相談する

上村 池永さん、お話を聞いて、私も勇気が出ました。池永さんが、がんがら治療を続けながら、仕事も生活も大切にしている姿を見て、私も頑張りたいと思います。

池永 ありがとうございます。私も頑張ります。池永さんが、がんがら治療を続けながら、仕事も生活も大切にしている姿を見て、私も頑張りたいと思います。

池永 ありがとうございます。私も頑張ります。池永さんが、がんがら治療を続けながら、仕事も生活も大切にしている姿を見て、私も頑張りたいと思います。

主催：日本緩和医療学会 後援：神奈川県、横浜市、全国がん患者団体連合会、日本がん看護学会、日本がんサポーターティークア学会、日本癌治療学会、日本緩和医療薬学会、日本サイコロジ学会、日本在宅医学会、日本在宅医療学会、日本死の臨床研究会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本ペインクリニック学会、日本放射線腫瘍学会、日本ホスピス緩和ケア協会、日本ホスピス・在宅ケア研究会、日本麻酔科学会、日本臨床腫瘍学会、日本臨床腫瘍薬学会、日本老年医学会

